

## 企業概要・事業内容

TOTOマテリアはTOTOグループの一員として、環境建材、鏡の開発・製造を担っている企業です。

- 所在地 : 岐阜県土岐市
- 創立 : 1921年 (大正10年)

### ■製品

内装大型防汚陶板  
ハイドロセラ・ウォール



浴室専用床タイル  
グリップフロア

タイルデッキシステム  
パーセア



## 企業理念・経営戦略を実現する為の課題とオフィスづくりの具体策

TOTOマテリアは市場の変化に耐えうる強固な事業体質を構築するため、2017年までの長期ビジョンとして「マテリアVプラン 2017」を掲げた。「マテリアVプラン 2017」とは・・・<利益の出せる企業体質の強化><新規市場を開拓し成長を牽引><グローバル視点での事業展開>で  
**2017年 新しい「まいにち」を世界中のお客様へ提供し、これからも必要とされ続ける企業へ。**

2012年4月、御嵩工場を土岐工場と統合し、製品、生産の整理を行うことを決定、製造を国内外の協力工場へ委託することで、コスト競争力を強化し、開発分野ではさらなる品質、技術の向上を目指す。

タイル製造会社から「**世の中に無い技術・製品を創造していく技術開発会社への変革をとげる**」ためのオフィスづくりが必要となった。

新しいアイデアが世に現れ、生活を大きく変える・・・

## 「Innovation Campus」

～技術革新するフィールド～

- 1 人と情報の「流動性」**  
・・・活気あふれた組織、知の融合をはかり協創&創造性の向上
- 2 環境建材の体感ゾーン**  
・・・来客に環境建材事業部の商材を体感いただく
- 3 人と環境に優しいオフィス**  
・・・環境負荷の軽減、オフィスコストの削減

## 《オフィスづくりの具体策》

- 組織変更に対応しやすいフレキシブルなオフィスとする
- 運用ルールの構築や慎重な導入計画によりフリーアドレスを実現する
- 多くの出会いを演出することで、コミュニケーションを活性化し開発力を向上
- オフィスシーン・インテリアへ自社商品の新たな活用
- 照明・冷暖房効率UPし、消費電力削減する。既存家具の転用

2011,03

プロジェクト  
スタート

## 経営者、社内チーム

TOTOマテリアは市場の変化に耐えうる強固な事業体質を構築するため、2017年までの長期ビジョンとして「マテリアVプラン 2017」を掲げた。タイル製造会社から**世の中に無い技術・製品を創造していく技術開発会社への変革。**

**2017年 新しい「まいにち」を世界中のお客様へ提供し、これからも必要とされ続ける企業へ。**

■御高工場（主にタイルを製造）を土岐工場（主に鏡の加工）と統合することで、製品、生産の整理を行うと共に製造効率を向上させるべく、工場を土岐工場に集約することを決定。

■技術開発棟に開発系のみを部署を集約し技術開発力を向上させ創造性が育まれ組織全体が活性化されるオフィス環境づくりを計画。（オフィスリニューアル）

2011,04

オフィス  
コンセプト

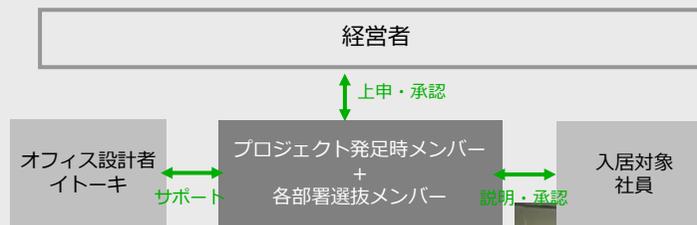
### ■プロジェクトチーム発足

### ■コンセプト作成 「Innovation Campus」

～技術革新するフィールド～

- 1 人と情報の「流動性」**  
・・・活気あふれた組織、知の融合をはかり協創&創造性の向上
- 2 環境建材の体感ゾーン**  
・・・来客に環境建材事業部の商材を体感いただく
- 3 人と環境に優しいオフィス**  
・・・環境負荷の軽減、オフィスコストの削減

### ■プロジェクトチームの関係図



2011,11

プランニング

### 《オフィス構築への様々な調査》

現状の働き方ヒアリング

フリーアドレス導入の検討

デスクスタンダードの検討

### ■満足度調査の実施（リニューアル前）

### ■各部署からプロジェクトメンバーを選出し検討会議を実施

- ・事務所系部門の分離
- ・フリーアドレス導入検討
- ・デスクスタンダードの検討
- ・スペース効率の検討
- ・自社製品の活用を検討
- ・運用方法、社内ルール作成
- ・内装計画の検討

### ■運用開始

- ・移転説明会の実施
- ・運用マニュアル作成
- ・定期的な運用ルールの見直し会議

### ■満足度調査の実施（リニューアル後）



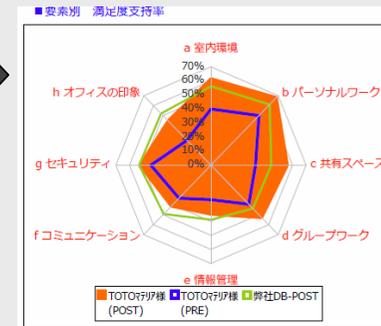
社内チームとイトーキで 定期的に検討会議を重ねた（デスクスタンダードの検証風景）

リニューアル前（2012年4月実施）



■現状オフィスの満足度調査結果

リニューアル後（2013年4月実施）



2012,06

工事・移転  
・運用

2013,08

より快適なオフィスにするため、満足度調査の実施。リニューアル前とリニューアル後で比較して、すべての項目で高い満足度支持率となっています。

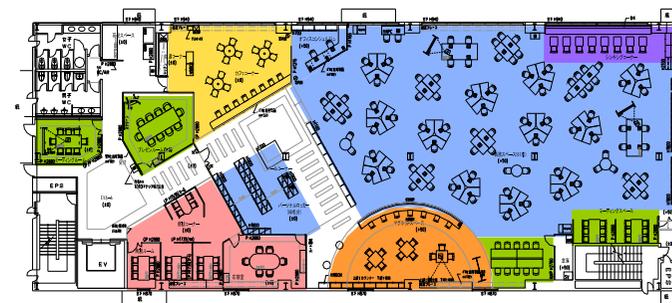
「Innovation Campus」～技術革新するフィールド～

1 人と情報の「流動性」

・・・活気あふれた組織、知の融合をはかり協創&創造性の向上

《オフィスづくりの具体策》

- 組織変更に対応しやすいフレキシブルなオフィスとする
- 運用ルールの構築や慎重な導入計画によりフリーアドレスを実現する
- 多くの出会いを演出することで、コミュニケーションを活性化し開発力を向上



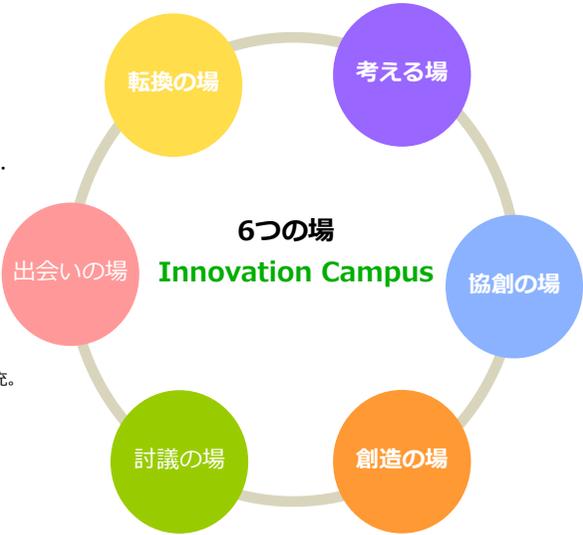
世の中に無い技術・製品を創造していく技術開発会社への変革をとげるためのオフィスづくりを促進。  
6つの場でオフィスを構成し、これまでの自席完結型の働き方から、目的に応じた機能を選択し、多様性を持たせた働き方へと変革させます。  
それにより、創造性が育まれ浸透し、組織全体が活性化されるオフィス環境を実現します。



転換の場となるカフェを窓森林を眺めながらリフレッシュできる、窓際に面して設置。社員同士の何気ない会話からアイデアが生まれます。

出会いの場となるロビースペース・応接室・商談スペースをゆったりと設けることで社外の人とのコミュニケーションで、開発のヒントを得る機会も増えました。

討議の場となるプロジェクトスペース・プレゼンルーム・ミーティングルームを拡充。研究発表の機会が増え、開発意欲を促進します。



考える場として一人集中できるスペースを窓際の明るい場所に配置。執務スペース内の人気スポットとなっている。

協創の場は他部門の社員が気軽にコミュニケーションがとれるフリーアドレス。自己紹介を兼ねたネーム入りのサインも活用しています。

創造の場となるマグネットスペースではオフィスのセンターに設け、資料や現物見本などを集約し、常に人・情報・アイデアが集まる活気あるスペースになりました。



2 環境建材の体感ゾーン

・・・来客に環境建材事業部の商材を体感いただく

■ オフィスシーン・インテリアへ自社商品の新たな活用



- ① 受付壁面に自社タイルを利用。  
(お客様へのPRとなり、自然に商品の商談につながります。)
- ② ホワイトボードにも自社タイルを利用。  
(新しいタイルの利用方法など社員への気づきを啓発。)
- ③ パーテーションパネルに自社タイルを利用。  
(取外し可能とし、定期的に張り替えることでお客様への商品PR及び社員の商品知識の向上の場として活用。)

3 人と環境に優しいオフィス

・・・環境負荷の軽減、オフィスコストの削減

■ 照明・冷暖房効率UPし、消費電力削減する。既存家具の転用

快適性を高めるため、執務エリアを窓側へ設け、天気の良い日は照明を付けて利用でき、省エネ効果も上げています。空調設備は消費電力の少ないタイプものに変更。

《経営資産や情報の管理/維持管理と運用の方法》

■ 定期的な運用ルールの見直し・運用マニュアル作成

・運用開始時に運用マニュアルを作成し、運用後も半年に一度運用見直し会議を開き、ルールの改定をしています。  
運用ルールは各スペースごとに図解でマニュアルを作成し、社員に徹底し、より快適なオフィス環境づくりを目指しています。

